

【様式】

政務活動一覧

議員名：前田伸一

旅行期間	活動日時	活動先			政務活動の内容	関連領収書番号
		住所	活動先の名称	対応部局等		
6.5.17 6.5.18	6.5.18 14:00～ 16:00	富士宮市	西町レトロ館	参加者7名 内高校生6名	富士宮高校会議所意見交換会	505,506 507
無し	6.9.15 9:00～21:00	自宅	USBデータを基に受講	地方議員研究会CKセミナー事務局	決算審査特別講座	0808
6.9.21 6.9.22	6.9.21 18:00～19:05 6.9.22 9:30～11:00	米子市	・レセプション皆生グランドホテル ・本大会米子コンベンションセンター		手話パフォーマンス 甲子園 21日、レセプション 22日、本大会	0910,0911
6.11.6 6.11.7	6.11.7 9:40～16:00	東京都千代田区永田町2-2-1	衆・参議員会館	舞立議員他秘書含め9名 観光庁、環境省、内閣府、文科省	要望活動	1108,1109 1110,1208 1204
6.11.11	6.11.11 15:00～16:30	米子市	ワシントンホテル		子ども食堂トップセミナー参加	1112
6.11.26	6.11.26 15:00～17:00	鳥取市	白兔会館	鳥取県スポーツ協会	国スポ意見交換会参加	1113
7.1.11 7.1.12	7.1.11 9:15～18:10 7.1.12 9:00～12:00	米子市	米子コンベンションセンター		あいサポートフォーラム研修	0110,0111 0112,0113 0114
7.1.20 7.1.21	7.1.21 10:30～11:30	東京都千代田区永田町2-2-1	衆議員第一会館		山陰近畿自動車道整備推進決起大会参加	0109,0115 0116,0117 0118,0119 0120,0121
7.2.11 7.2.12	7.2.12 10:00～12:00	福井県あわら市	あわら農楽ファーム	CEO	農福連携視察	0209,0210 0213
7.2.11 7.2.12	7.2.12 13:30～15:00	福井県福井市	福井県庁	園芸振興課	RTK基地局ヒアリング	0211,0212 ,0214
7.2.17 7.2.18	7.2.17 13:30～15:00	横浜市中区	大林組ポートプラス	大林組	純木造耐火建築物の視察	0215,0219
			(次ページへ)			

7.2.17 7.2.18	7.2.18 9:30~10:50	東京都江東区	フラッツウツ ズ木場	竹中工務店	免震高層木造 ハイブリッド 建築物の視察	0216, 0217
7.2.23	7.2.23 13:30~14:30	鳥取市	白兔会館	鳥取県スポー ツ協会	表彰式出席	0218

- ・交通費（JR等運賃、タクシー代、駐車場代）、宿泊費、会議等への参加費及び会議の開催経費（会場代、講師謝金等）に政務活動費を充当する場合に記載すること。
- ・移動日等も含め政務活動が複数日に渡る場合は、移動日等を含めた「旅行期間」と実際の政務活動を行った「活動日時」を記載すること。なお、旅行期間が1日である場合は、旅行期間欄は空欄とし、活動日時欄の時間は記載不要とする。
- ・県外及び国外での政務活動については、別途「活動報告（県外・国外）」を提出すること。

活動報告(県外)

議員名：前田 伸一

活動事項	富士宮高校会議所の視察
活動年月日	令和6年5月17日(金) 移動日 宿泊 令和6年5月18日(土) 14:00~16:00 政務活動
場所	静岡県富士宮市西町レトロ館(富士宮市西町16-18)
活動の相手方	富士宮高校会議所
活動の目的	高校会議所設立効果の調査
活動の内容	高校会議所の高校生メンバー・時田事務局長との意見交換
活動の結果等	<p>富士宮市内の異なる高校の生徒が定期的集い地域の課題に地元企業と連携し取り組んでいた。その一つが富士宮の特産品であるニジマスの残渣と朝霧高原の牛糞を利用した堆肥「ますます元肥」の商品化である。当事者の高校生は「活動が楽しい。進学にあたっての評価にもつながる。この経験を活かし富士宮で働きたい。」との意見があった。</p> <p>鳥取でも高校会議所設立の動きがあり、富士宮の先駆的な取り組みを学び、応援したいと思った。若年層の活躍を鳥取でも推進すべきであり議会質問につなげていきたい。</p>
関連領収書番号	505, 506, 507

鳥取県議らが視察 富士宮所 富士宮所 高校会議所

富士宮高校会議所は
このほど、鳥取県議
の前田伸一議員と鳥取
情報文化研究所の植田
英樹代表の視察を受け



出席した皆さんが記念撮影(提供写真)

た。杉山菜奈会頭をは
じめとするメンバー6
人が対応し、活動拠点
の西町レトロ館(西町)
で懇談した。

メンバーは、オリジ
ナルのリサイクル堆肥
「マスマス元肥(げん
び)」の普及活用、ア
ート(音楽・絵画)を通
じた活気づくり、ベ
ビーカー・チャイルド
シートの2R(リユ
ス・リサイクル)と
持続可能な地域づくり
として取り組むSDG
S実践を紹介した。
時田定則事務局長は、
同会議所の発足の経緯
と、全国にネットワー
クを広げた日本高校会
議所の成り立ちなどの
歩みを語った。
前田議員らは、高校
生の視点を生かした活
動に耳を傾けるとも
に、鳥取県の地域おこ
し活動を説明し、それ
ぞれに質問を重ねなが
ら活発に意見交換した。

活動報告(県外)

議員名：前田 伸一

活動事項	山陰海岸ジオパーク議連要望活動
活動年月日	令和6年11月6日(水) 移動日、宿泊 令和6年11月7日(木) 9:40~16:00 政務活動
場所	衆・参議院会館(東京都千代田区永田町2丁目2-1)ほか
活動の相手方	国会議員、関係省庁
活動の目的	ジオパーク活動への支援要請
活動の内容	関係議員、関係省庁担当者との意見交換
活動の結果等	山陰海岸ジオパーク推進三府県議会議員の会(京都府・兵庫県・鳥取県)のジオパーク活動への支援の要望活動に参加した。 山陰海岸ジオパークの課題や所管する環境省のビジターセンターの考え方や国交省の観光周遊ルートの造成等に不可欠な北近畿豊岡自動車道の早期整備について意見交換を行い、国会議員の方にもジオパーク活動へのさらなる協力を要請することができた。
関連領収書番号	1109, 1110, 1111, 1204, 1208, 1210

令和6年度

山陰海岸ジオパーク推進三府県議会議員の会要望活動の結果概要

1 開催日 令和6年11月7日(水)

2 日程、場所 議員会館、各省庁

※アポ取りは、国会議員は舞立事務所浅井秘書、省庁は東京本部職員

<国会議員> 午前

9:35 参議院議員会館 ロビー集合

…随員職員(議会事務局職員)が受付にて入館手続きを行い、入館証を受領

9:38 入館ゲートを通り、エレベーターで舞立事務所(603)へ
舞立事務所の配慮により事務所に荷物を置かせていただいた。

9:40 舞立昇治議員【本人】 参603 ※ジオパーク議連 事務局長
藤井一博議員【本人】 (合同) ※ジオパーク議連 会員

※以降は、浅井秘書の案内により各事務所を回った。

10:00 青木一彦議員【秘書】 参814 ※ジオパーク議連 幹事

10:15 谷合正明議員【秘書】 参922 ※ジオパーク議連 委員

10:35 石破 茂議員【秘書】 Ⅱ515 ※ジオパーク議連 会長

10:50 赤澤亮正議員【本人】 Ⅱ1022 ※ジオパーク議連 副会長

11:00 谷 公一議員【本人】 Ⅱ810 ※ジオパーク議連 副会長

11:20 竹内 謙議員【秘書】 Ⅱ1223 ※ジオパーク議連 幹事長代理

11:35 本田太郎議員【本人】 Ⅱ210 ※ジオパーク議連 委員

11:50 斉藤鉄夫議員【秘書】 I412 ※ジオパーク議連 会長代理

(昼食) 参議院議員会館 地下食堂

※ 昼食後、兵庫県東京事務所職員(棟廣次長、安尾課長)と合流

棟廣次長、安尾課長の案内で、徒歩にて省庁回りへ出発(12:45)

<関係省庁> 午後

13:30~13:50 **観光庁** 長崎 敏志 観光地域振興部長

14:15~14:30 **環境省** 飯田 博文 大臣官房審議官(自然局担当)

15:00~15:15 **内閣府** 大瀧 洋 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官
曾官 和夫 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官

15:45~16:00 **文科省** 渡辺 その子 国際統括官

3 参加者

- 会長 銀杏泰利 (鳥取県議) 公明党
 - 副会長 森口 亨 (京都府議) 自民党
 - 副会長 門間雄司 (兵庫県議) 自民党
 - 副会長 広谷直樹 (鳥取県議) 自民党
 - 前田伸一 (鳥取県議) 公明党
 - 橘秀太郎 (兵庫県議) 自民党
- (随行) 鳥取県議会事務局 調査課 濱口義明、友定晋也

4 要望内容 別添要望書のとおり

5 活動結果

要望書に記載の内容を主に要望した。(銀杏会長より要望書に基づき要望内容説明)

↓

前回イエローカードを受けたが、指摘事項にもある程度メドが立ち、今回再認定を勝ち取ることができた。これから4年間、次回は2028年の再認定審査となる。

要望内容は昨年とほぼ変わらない。逆に言うともあまり進展がないということ。

ユネスコから前回指摘された課題として、一つは玄武洞での鉱石販売。化石はレブリカに切り替えているが、完全解決には至っていない。もう一つは、法人化、運営体制の強化。30数団体が協議会を構成しているが、まとまった活動のためには推進体制の強化が必要。これらもめどはつきつつある。

我々も再審査通過に向けて頑張っていきたいが、石破内閣が地方創生も掲げているので、地方創生をジオパークでとの思いで支援していただきたい。

① 【積極的な財政支援】

京都、兵庫、鳥取の三府県にまたがる山陰海岸ジオパークのような場合、複数の自治体等がジオパークを活用する各種取組に対し、しっかり財政支援をお願いしたい。

② 【PRの強化】

ジオパークへの国民理解の浸透を深めること、また、ゴールデンルートから外れたジオパーク地域にオーバーツーリズム対策としても外国人を呼び込むため、誘客促進のため、魅力発信・PRの強化をお願いしたい。

③ 【教育現場での活用】

複雑な地形を有し世界でもまれにみる地質で、必然的に地震も多くなる自国の構造について、ジオパークを学校教育に活用し学んでいくことを更に推進して頂きたい。

④ 【アクセス強化】

山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道路の早期整備、航空便、観光ルートの整備、港湾整備、鉄道の利便性向上・高速化等により、山陰海岸ジオパークまで足を伸ばせるように配慮を願いたい。

<要望概要:個別版> 国会議員

9 : 40 舞立昇治議員【本人】 参603 ※ジオパーク議連 事務局長
藤井一博議員【本人】 (合同) ※ジオパーク議連 会員

舞立： 比較第一党として地方創生に力を入れる中でも、極力ジオパークに関して
もこれまで以上にご支援できるよう頑張っていきたい。

藤井： 地方創生は国として正に進めていかないといけないが、地域のことは地域
の皆さんが一番よくわかっている中で、地域の皆さんが使いやすい制度であ
ったり、予算も含めてしっかり力を入れていきたい。全力で頑張りたい。

銀杏： 岸田政権のときから、オーバーツーリズムや地方への外国人誘客の必要性
は言及されていたが、政府として具体的に目立った動きが見えない。

舞立： コロナ禍前の外国人観光客の傾向と比較して、コロナ禍後は三大都市圏に
偏っている。石破政権では、農林水産業や観光業など地域が持てる力を最大
限発揮して、政府としても地域分散型社会に力を入れてやっけていかないと、
ますます三大都市圏に偏ったり、東京一極集中への加速が進んでしまう。そ
のあたりは、こちらもしっかり訴えていきたいし、これから地方創生2.0とい
う段階にシフトしていくので、ゴールデンルートから外れた地域にできるだ
け分散^ばらせていくような、そのためにも道路や鉄道など含めインフラ整備も
しっかりやっけていく必要がある。

銀杏： 交通の便が悪い中、天候によってはJRも頻繁に事前運休するようになっ
た。交通手段としてあまり頼りにならない面もある。

舞立： あまりに慎重になりすぎているのかも。

橘： 普通列車も減便されているほか、特急も香住まで来なくなった。地域からは
かなり声が上がっている。

舞立： もうちょっとJRに頑張ってもらわないと

門間： 東京で収益を上げる一方で地域交通を守ること、これは一体の話。

舞立： 新しい資本主義というか、過度な市場原理・競争主義など行き過ぎた部分
があり、予算の増額も含め国の関
与が必要な部分はしっかりやっ
ていく必要。三府県や市町村とも連
携して、地方創生のための資金も
たくさんあるのでどんどん申請、
活用してほしい。県がバックアッ
プするものが、なかなか山陰海岸
くらいしかない。県と市町村が頑
張りつつ、そこを国がバックアッ
プ、是非応援していきたい。



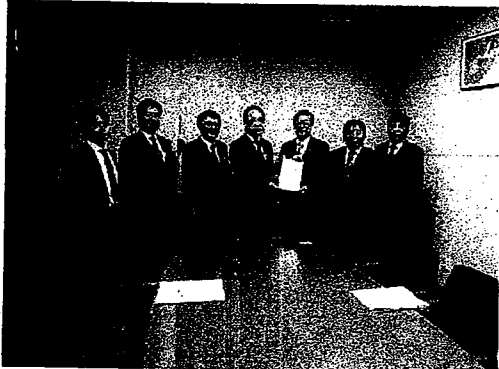
10:00 青木一彦議員【秘書】 参814 ※ジオパーク議連 幹事

※秘書対応



10:15 谷合正明議員【秘書】 参922 ※ジオパーク議連 委員

※秘書対応



10:35 石破 茂議員【秘書】 II515 ※ジオパーク議連 会長

※秘書対応



10:50 赤澤亮正議員【本人】 II1022 ※ジオパーク議連 副会長

赤澤： 昨年と同様の項目を要望いただいているということは、あまり進んでいないということで、申し訳ない。鉄道は法律も変えて、私が会長代理をしている公共交通議連でも取り組んでいるが、確かにいろいろ課題がある。



11:00 谷 公一議員【本人】 II810 ※ジオパーク議連 副会長

谷： (ゴールデンルートから外れたジオパーク地域への誘客について) 地方が黙っててもダメ。鳥取は何かやってる？

银杏： いろいろやってはいるものの、航空便が増えることもなく、鉄道もローカル便は減便になったり。特に但馬地域でも。

谷： マイナスばかり言ってもダメ。城崎でインバウンドは？10万もない？

門間： 5、6万くらい。

谷： 鳥取は？

银杏： インバウンドは少ない。

谷： 城崎も飛行機で来る人はいない。みんな列車で大阪や京都から。鳥取に行くのも時間的には同じようなもの。大事なものは魅力化。

银杏： 今、一生懸命取り組んでいるところ。国も言うばかりで、地方頑張れではよくない。飛行機便は10年たっても増えていない。

谷： 徳島の祖谷は非常に辺鄙な場所だが、人は来る。やはり仕掛けかな。

银杏： 今は、砂丘は一生懸命やっている。

银杏： あとは道路。山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道の整備。

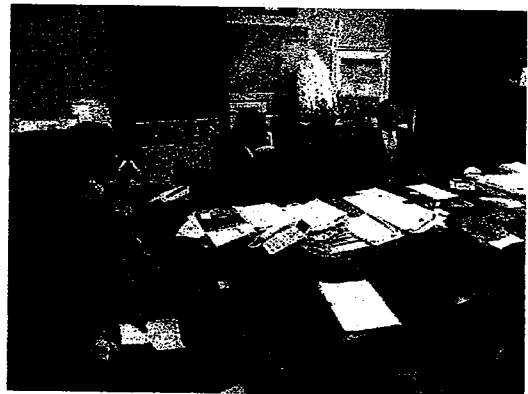
谷： それはしっかり頑張ります。

银杏： 鉄道はどれだけ言ってもしょうがなく、予算的な支援をしないと解決しないかも。田舎の方は減便してコストを減らしていく流れに思える。

谷： 鳥取で対象の路線はある？

银杏： 因美線がある。智頭から津山まで。

- 橘 : 鳥取～浜坂間も。
- 谷 : 城崎以西。城崎までは特急が動いている。そこから鳥取まで動いていない。
- 銀杏 : 協議もされ始めているようだが、見守るだけではいけないのだろうと。
- 門間 : そもそも輸送密度の計算手法を変えないと。特急を減便すれば一区間あたりの人数は減る。それを人口、乗客減少のためとJRが言っているのは疑問。
- 谷 : 因美線の減り方がすごい。なぜ、こんなに減ったの？
- 前田 : 智頭も津山も人口減。交流も薄くなってきたのかもしれない。
- 谷 : 智頭鉄道ができた影響はないのか？
- 前田 : それもあるかもわからない。
- 谷 : 城崎以西が減ったのは明らかに智頭鉄道が出来たから。それまでは鳥取から大阪に行くのも山陰本線を使っていたが、今はいない。但馬からすれば、兵庫県政の誤りだった。智頭線にお金を出して、山陰本線が衰退した。
- 谷 : わかりました。頑張りましょう。ただ、人材はいるのか？
- 広谷 : 事務局は推進協議会ということで、三府県から人が入っている。
- 前田 : 兵庫県立大学の松原先生がアカデミックディレクターに就任。
- 谷 : 道の駅で成功しているのは、民間人材を登用しているケース。
「まほろば」の初代は、ダイエーのもと店長。「おばあちゃんの里」は阪神百貨店の部長。商売に明るい人材が責任者になることが重要。
- 銀杏 : 以前は推進協も民間から人材を登用していたが、学術関係もしっかりしないといけないとの注文があった。推進協も寄せ集めの協議会なので、限界がある。三府県六市町がしっかりとしないと。本当なら、兵庫県知事が一番しっかりとしないといけない。兵庫県が面積的にも一番広い。
- 谷 : 兵庫県はどうしても南になってしまう。人口から言っても。
かつて、兵庫県にも阪本知事という社会党系で、もと尼崎市長だった人で、昭和20年代に但馬地域のインフラ整備、餘部駅の整備などに尽力され、地方に目配りした知事がいた。これからそうなってほしいが。
- 銀杏 : 法人化は参加自治体の合意が今年1月にされているので今後進むはず。
- 広谷 : 法人になると職員も固定され、運営も変わってくると思う。
- 谷 : 法人と人と。頑張りましょう。



11:20 竹内 譲議員【秘書】 II 1223 ※ジオパーク議連 幹事長代理

※秘書対応



11:35 本田太郎議員【本人】 II 210 ※ジオパーク議連 委員

本田： 石破総理の地元ということで、今がチャンス。JRに対しては、タイミングを見計らい、ベクトルが上向きの際に話を持ち掛けないと難しいかも。

銀杏： スーパーはくと、智頭急行は第三セクターで、JRが手放した路線で全国でもまれな黒字路線を維持し、万博に向けて増強の動きもある。

門間： 天橋立から城崎温泉までのダイレクト運行で、線路はつながり、北近畿京丹後鉄道とJRが乗り入れをしている。天橋立から豊岡、城崎、香住、浜坂、鳥取砂丘へ列車さえ準備すれば、本当の意味でのジオライナーが実現できると思っている。三府県で連携し、地方創生交付金も倍増する中、ソフト対策で活用・実現できないかと。京都のオーバーツーリズム対策にもつながる。

本田： 今でも京都市内であふれ、天橋立くらいまでは増えており、現地では路線バスも一杯で住民が乗れないこともある。ただ京丹後までは届いていない。

門間： 事実上、兵庫県北部の場合、神戸を窓口にして来るより、大阪か京都から流れてくる。東の玄関口として取り組んでいただけると、ありがたい。

本田： 交付金の件はこの臨時国会で議論されるのではないかと。野党の動きも不透明だが。総理は、倍増させるとおっしゃっているし、我々もしっかり応援していく。皆さんからも応援をよろしく。



11:50 齊藤鉄夫議員【秘書】 I 412 ※ジオパーク議連 会長代理

<要望概要:個別版> 関係省庁

13:30~13:50 観光庁 長崎 敏志 観光地域振興部長

長崎: (観光庁所管の) 当初予算は500億程度だが、補正・経済対策でインバウンド関係など600~700億、当初より補正が多い歪な形になっている。合わせて1,000億強、8割が地域予算でそれ以外は海外でのプロモーション等になる。800億が地域予算で自分が担当し、目的・テーマに応じて募集している。

銀杏: 山陰海岸は?

長崎: 今回調べてみたが正直あまりない。世界遺産、農業遺産、無形文化などの場合、観光への支援実績はあるが、ジオパークに関しては結果として薄い。

理由を考えると、一つは、世界遺産、日本遺産の場合、地域ネットワーク、登録地点のネットワークが結構ある。観光振興を含めどう取り組むか、ネットワークの中でいろいろ密にやっている模様。当初、補正予算も含め、どうすればニーズに応えられるのかなど検討されている。特化した予算でなくても、随時、募集のタイミングで情報提供されている。その点がジオパークに関しては薄いように思われる。

も一つは、国の支援は、自治体への支援と民間事業者・団体・DMOへの支援の2パターンあるが、観光庁は後者が多い。山陰海岸ジオパークの場合、支援の受け口のところで、三府県横串で今年度はこの部分、次回はここというような統一的な調整がしづらい、できていないという面があるのではない。全体のくくりではなく、地域ごとの単発支援になっている。ジオパークの例では、隠岐のジオパークとしてDMOがあり、観光庁的にはやりやすい。ジオパークとして、地域として、何をしたいのかが分かりやすい。山陰海岸の場合も、コミュニケーションのやり易さが必要。

銀杏: 再認定での課題2つのうち、一つが協議会の法人化の問題。民間も含めて37の団体が協議会を構成しており、まとめるのが大変。今年1月に法人化へ合意。関西広域連合の観光部会長が鳥取県知事で、そこでジオパークも取り上げて予算化している。本来は1つの法人で予算も補助金も頂けるような形にしないといけない。隠岐の例も見習って議会でも提案しているところ。

長崎: 三府県にまたがって本当に大変だと思う。県議の皆様にも要望いただいて、応援したい気持ちはあるが、県議の皆さんに補助金を投げるわけにはいかない。投げる先、実施主体としてしっかりコミュニケーションがとれる主体をぜひ整備して頂きたい。

銀杏: もともと民主党政権時代に石破幹事長と谷垣総裁宛に、山陰海岸ジオパークの議員連盟で、国会議連を作ってほしいと要望した。政権が自公政権に戻ったときに作りましょうということで、その後作られた。そこから各省庁で予算組みもされるようになり、ありがたいと思っているが、三府県にまたが

る山陰海岸では受け手がしっかりしてなくて、十分活かしきれていない。今後法人化によって、解決はしていくと思うが。

特に今、オーバーツーリズムが言われておりいかに地方に観光誘客するか、地方でも商品づくりしていく必要があるが、足元が見えてない部分もあり、国の声掛けが進められてる部分もあるので、国からも支援をお願いしたい。

パンフレットなども自治体ごとでは作成されるが、三府県またがってというのはなかなか少ない。もしかすると、議連が一番一体感があるかも。

門間： 推進協は、今は、疑似的な連合体のイメージ。窓口として事務局はあるが、予算の受け口とはなっていない。受け口としては観光協会や自治体を經由して国の予算をどう活用するかということになる。国全体がジオパークを観光と結び付けようとしているとき予算の受け皿が必要ということで、事務局の体制は現在検討されているところ。

長崎： 大変だと思うが是非お願いしたいところ。支援として国からお金が流れるので、何に使いたいのか、使った後は検査もあるので、受け皿をどうするかという問題がある。別にバラでもよいが。

銀杏： 山陰海岸だけの問題ではなく、今年もJGN総会に参加した際、ゴールデンルート以外にお客が来ないという声が多数あった。昔はディスカバージャパンなど、国全体で取り組んで地方を発掘する予算があった。大きくPRしてほしい。

門間： 全国規模で、ジオパークをキーワードに。

長崎： 山陰海岸だけでなく、他のところもあって、さっき申し上げた日本遺産、世界遺産のような地域ネットワークがあって、、、ジオの場合、リーダーは？

銀杏： 糸魚川とか、雲仙普賢岳、北海道洞爺湖、山陰海岸も。

長崎： 他のところはネットワークの中で、1年ごとに幹事を持ちまわっている例もある。今これが欲しいんだというところで、コミュニケーションがし易い。

銀杏： ジオパークはヨーロッパから始まり、中国、そのあと日本に広がった時期は遅かった。当初は予算も少なく省庁の所管もはっきりせず、今も結局所管は管内閣府。ユネスコとしても世界遺産と違いジオパークはランクが低いのかも。

長崎： 観光庁的には別の視点がある。世界遺産は保護の視点。ジオパークは活用に力点があり、大きな素材だと思う。例えば、アドベンチャーツーリズムなど。ゴールデンルートから全国に分散させ広げていかないといけない。

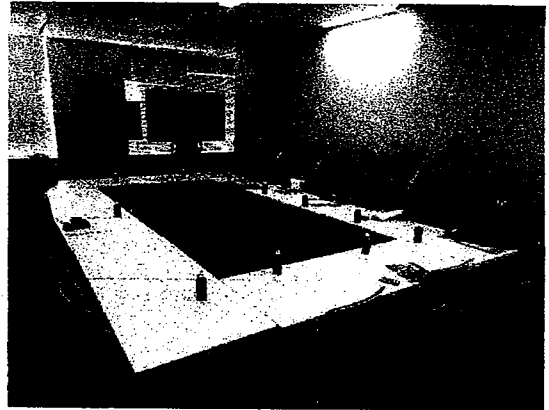
銀杏： オーバーツーリズム対策で、国もしっかり動いて頂きたい。

長崎： ネットワークとしての山陰海岸という形でなくても、地元自治体に取組があるのであれば、どしどし出してもらって運輸局、観光整備局、観光庁も含めて関係づくりをしてできることから始めていけばよいと思う。

銀杏： 国立公園の地域とも近似しており、大山のほうは環境省がしっかりフォローしてくれており、アドベンチャーツーリズムを推進されている。それを山陰海

岸国立公園のほうでもやっていただきたい。

長崎： オーバーツーリズムもそうだし、受入環境整備のところでは観光案内所や道看板への補助、宿泊関係の支援もいろいろメニューとしてはある。ジオパークに限らず課題対処型のものだが、まずはそのあたりからで、組織だってくればまたいろいろ展開できると思う。



14:15～14:30 **環境省** 飯田 博文 大臣官房審議官（自然局担当）

銀杏： 今回の要望書には書いていないが去年も要望した内容で、兵庫県が一番面積が広く窓口となる拠点がいくつかあるが、いずれも小規模であるので、センター的なものが兵庫県にできないかなど。

また、国立公園で大山の方はしっかりやっていただいているので、山陰海岸はじめその他の国立公園にも手を伸ばしていただいて、支援をいただきたい。

飯田： 実は10月に山陰・但馬地域を訪問した。豊岡のコウノトリのところで表彰式に出席し、鳥取砂丘にも足を伸ばして、ビジターセンターも見させてもらった他、玄武洞なども見学した。初めて見たところも多く非常に感銘を受けた。

国立公園エリアとほぼ重なっているので、環境省の事務所もあり、地元自治体と二人三脚でやっているところを拝見した。こういう関係を大事にしていきたい。

要望いただいたことも、できることからしっかりやっていきたい。環境省としても、国立公園、ジオパークというツールで、表裏一体で進めるという認識も持っているので、情報発信も含め力を入れていきたい。

前回のイエローカード受けて、今回は環境省からも人材を派遣して、審査の場に立ち会った。トレイルを使っていただくことも課題で、ガイドの育成などにも予算を投入しているところ。今後も一緒にやっていきたい。

門間： 竹野のスノーケルセンターは環境省の所管だが、外国人観光客の考え方として何か変わりつつある、とうことはあるのか？

飯田： インバウンドを呼び込んでいくというのは政府全体の方針。民間活力も活用し、

世界一流のナショナルパークを作っていこうという目標があるので、山陰海岸もそういう視点でいる。ビジターセンター、スノーケルセンターで情報発信する際の多言語化には着手している。

門間： 現地で聞いたが、自然を体験する際、いざというときの事故対応、保険対応等どう処理したらよいかという声もある。環境省のスノーケルセンターに外国人が来た場合の対応、仕組みはどうか。

飯田： 場所によって対応が変わるかもしれないが、アドベンチャートラベルの世界は自己責任でやっていただくのが基本と思われる。ただ、省としての方針・取決めがあるかという点では今資料を持ち合わせてない。引き続き、事務所とは話をし対応していきたい。

門間： 竹野は城崎の隣だが、外国人がオフシーズンの砂浜にきて、莫莖をひいて1日中本を読むというケースもある。その一環で、スノーケルセンターにふらっと立ち寄るといふこともあるようだ。環境省として、そういったことを広げようとしているのか、現場レベルではわからなかった。

飯田： おっしゃった問題意識は現地にも伝えてみたい。懸念されていることとして、事故があったとき、救助などの費用を払わずに帰国するなどのケースもありえる。

飯田： 本日のお話は現地にしっかり伝える。



15:00~15:15 内閣府 大瀧 洋 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官
曾宮 和夫 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官

曾宮： 要望いただいた内容についてはしっかり考えていきたい。交付金活用の手引きなども作成しているので、適宜ご活用いただければ。

大瀧： 地方創生2.0ということで、地方にとって自由度の高い、使いやすい交付金にしていきたい。そのための予算確保や支援に取り組んでいきたい。

ジオパークは、観光面など地方創生の効果が非常に高いと思われるので、より一層アピールもしながら進め、持続可能な地方の盛り上がりにも繋げていければ。

石破総理は、産官学金労言とおっしゃっておられるが、地域が一体となって取り組むというキャッチフレーズだと理解。小学校、中学校の子どもたちや労働者も含めて、連携しながら地域を盛り上げていこうという発想で、地域一体となる取組が進んでいければと思う。国も、地方の活動をしっかり支援していきたいので、是非活発な活動に期待をしている。

銀杏： 人口減少が急激に進み、人材不足によって、熟度が低いというか、アイデア不足の面もあるので、国もしっかりフォローして頂けるとうれしい。

大瀧： 人材派遣の制度もある。地域から声があれば駆けつける。面としては難しいかもしれないが、まずは点として拠点を作り盛り上げていく。島根県海士町も成功事例として人がたくさん来ている。鳥取県でも、大山の麓や、八頭の隼ラボなどいろいろ頑張っておられる。鳥取県でも 2022-23 で出生数が増えており、これまでの様々な取組が実を結びつつあるのではないかと。県全体としては難しいかも知れないが、持続性が高まっている地域もあると思う。そういった中に、是非ジオパークの取組みも加えていってほしい。地域から課題を聞きながら、国としてもできる支援を考えていきたい。

広谷： 山陰海岸ジオパークはエリアが広いので、地域では盛り上がるが、全体としては盛り上がりにかける部分があるのかもしれない。また、組織体としても、三府県三市三町の協議体であるので、統一的な対応が難しいところ。

曾宮： 山陰海岸ジオパークはかなりの部分、国立公園とエリアが重なっており、環境省も事務所を置いているところ。若い活きのいい職員も配置されているので、国の支援も活用しながら取り組んでいただければ。

広谷： 国が先頭に立ってでも認知度を高めて頂きたい。

曾宮： 地質学的には非常に貴重でその分野では知らない人はいない。確かに一般国民への知名度とはギャップがある。この差を埋めていければ、発展性はあると思う。

門間： 施設のユニバーサル対応については、どういう切り口、アプローチとなるのか。ジオパーク施設から車いすで降りていく際、設備修繕できないかという話もある。

曾宮： 個別のケースで対応していくことになる。

銀杏： 鳥取砂丘では、太いタイヤで砂で沈まない車いすを配備している。

曾宮： ユニバーサル対応はいろんな省庁がいろんな形で対応している。

大瀧： 東尋坊などの他の地域、観光地でも同じ悩みを抱えているはず。

曾宮： 環境省施設も対応は進みつつある。今後インセンティブをどう上げていくか。

大瀧： 地方創生交付金の中にも、拠点整備を行う際に合わせてユニバーサル化を行える 2～3 割の補助となる効果促進事業というメニューは活用できる。

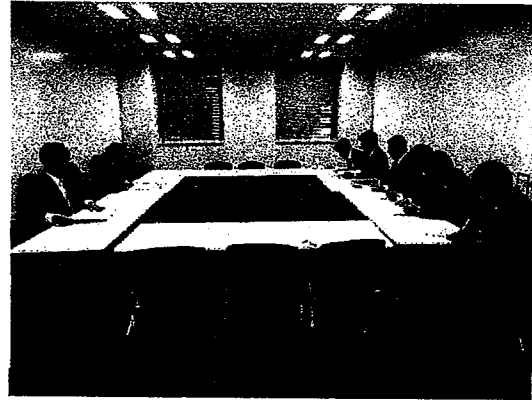
前田： ジオパークでアドベンチャーツーリズムのような危険を伴う場所に来てもらうため施設整備しようにも、いろいろ規制があったりで現状難しい面がある。そういったところも国で考えて頂ければ。

曾宮： メリハリの部分はある。

銀杏： 環境省は自然に手を加えることはあまり好まない傾向があるかも。

大瀧： 東尋坊は、施設を環境に配慮した形に改修している。既存のものを改修ということではれば対応はできるかもしれない。

銀杏： 世界審査の際、提案があった。陸地中心のエリアを海側に広げよということだが、海側は観光船もあるのだが、海の産物や、これからは海の中もあるのかなど。そういったところにも力を入れていく必要がある。国からも支援をいただければ。



15:45~16:00 文科省 渡辺 その子 国際統括官

渡辺： 地質遺産販売の件は、おそらく次回審査でも確認が入ると思う。

山陰海岸ジオパークに限らないが、地域とのつながりや、生態系の関係、ユネスコスクールなどでサステナビリティを考えるプログラムもある中、環境だけでなく自分達のまちの将来を考え、その中で自然や地質も理解する、そういった活動を通じて、多様性、相手を理解する取組をユネスコは進めている。是非、学校の活動の中でうまく取り入れていただければ。

ユネスコスクールは、兵庫・京都の全エリアではたくさんあるが、山陰海岸ジオパークエリアに限定すれば、4校のみ。地域でユネスコ活動をしているところ、公務員 0日の方も参加されていたりするので、それらは学校教育にも結びつけやすいので、学校と地域でうまく連携していければと思う。今度、新居浜市の日本ユネスコ協会の表彰式に行く予定だが、町単位でそういった活動をしているところもあるので、いろんな地域活動の中で、今後地域を支える若い人材もジオパークに繋がっていただければと考えている。

銀杏： 自分も鳥取ユネスコ協会の会員であり、本日は来ていないが福浜幹事もユネスコ協会の会員。来年 50 周年記念講演を行い記念誌も発行予定。福浜幹事は地元の小学校でユネスコ活動についての出前授業をしているが、これまでジオパーク協議会の中で、特段、ユネスコの SDGs の取組や、ユネスコ協会とのタイアップ

というのは聞いたことがない。審査の際、そのような観点も重視されるのか？

渡辺： 教育や地域の人をどう巻き込んでいるか。自然は保全されていても人がいない地域というのはユネスコの理念とは少し違う。国立公園、自然公園の枠組みと異なり、観光も含めて適切な形でいろんな人に知ってもらい、それに関わっていただく、地域を持続可能にするきっかけとしてうまく使っていただくこと、そういったことも評価されつつ、世界的な地質学的価値も認められて、ユネスコのお墨付きがもらえる。適切に利用すること、そこに住む人々も地質学的な重要性を後世に伝えていくということで教育にうまく活用していただければと思う。

門間： 教育現場では何らかの大義名分、通達のようなお墨付きがあれば、ユネスコ活動の取組を進めやすくなるのではないか。

渡辺： おっしゃる通り。ユネスコスクールは国内に約1,100校あるが、12年ほど前は24校しかなかった。親和的な教育カリキュラムを学年ごとに作ってもらうことをしつつ、学習指導要領にも持続可能な社会の担い手の教育といった文言を入れてもらった。総合学習の時間を使われているのがほとんどだと思うが、先生によっては理科や社会の授業時間に取り入れている。また、今では学習指導要領だけでなく、上位の教育基本計画の中にも入れている。

門間： 世界審査の中でも、そういったところも見られているのか。

渡辺： 我々から、そういった観点をもっと入れてもらうようお伝えしないといけない。

文科省： ユネスコ提出する書類を事前に見させてもらって、ユネスコスクールや地域とのつながりの面を書き足してもらっている。今後の取組によって、もっと厚みをもって書いて頂けるようになるのではないか。

渡辺： ユネスコスクールに限るわけではなく、親和的な活動がされているということが評価されるのだと思う。

銀杏： 今は、三府県三市三町で協議会を構成し、自治体の中に教育委員会があり学校現場を持っているので、やりやすい。ただ、ジオパークの中に学校を取り入れるというのは逆の発想であって、ユネスコの中でジオパーク活動を取り入れていく、ジオパークが上になって地域の教育をこうしなさい、ユネスコスクールを全国に広げなさいというのは違うと思う。

渡辺： おっしゃる通り。ユネスコ活動が全体にある中で、世界遺産がある地域もあれば、無形遺産があるところもある。それぞれの地域で大事にしているものを学校教育の中にうまく取り入れること。どちらか一方ではなく、全体の中で、自分の地域ではどういうところを中心にしていくのか、そのつながりをしっかり持つ。ジオパークの申請書を書く時には、いろいろな活動を書いてもらうということ。あくまで、全体の中でうまく調和を図っていただき、若い人が地元にあるものをよく知って大事に思う、自分のものを大事に思うということは、他人のものも大事に思うということへ発展することを期待している。

銀杏： 我々議連は応援する立場。主体は推進協議会。そういう意味で、今回の要望書にも、ジオパークが世界にもまれな地質遺産であり、自分たちの住む地域の自然や文化を教育の場で学ぶことの重要性を書いている。

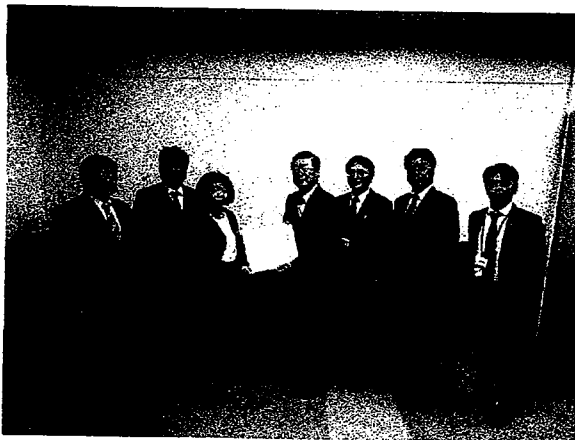
渡辺： おっしゃる通り。我々もいろいろな活動とうまく繋がれるよう、いろいろな方々にしっかりと情報発信などしていきたい。

銀杏： 当然、SDGsを進めることもジオパーク活動の一つだと思ってる。

渡辺： 日頃推進していただき、感謝。よろしく願いたい。

銀杏： 山陰海岸ジオパークのエリア内に数十万人の住民が暮らしている。従来から近隣地域では、暮らしの中で玄武岩を建材・石材として使ってきた。ユネスコから指摘された玄武洞の鉱石販売についても、玄武岩だけでなく世界各国のものを販売し、ジオパークに指定される以前から生業として実施しているもので、生きる権利、営業の自由もあるので強制的にはできない。イミテーション販売に切り替えて解決への道筋をつけているので、審査の際にもご理解いただいたものと思う。

渡辺： 許容される範囲をしっかりと探っていくということだと思う。玄武岩については、文化として、地域でずっと建材として利用してきたということだが、国立公園内での制限があるなら別だが、利用してきた歴史があるということは緩衝地帯での文化なのかと思う。審査の際に、その生業も含めて否定されることはないと思う。そこは私たちがしっかり説明していかないといけない。外国語に翻訳する際はニュアンスが難しいのだが。



活動報告(県外)

議員名：前田 伸一

活動事項	山陰近畿自動車道整備推進決起大会
活動年月日	令和7年1月20日(月)移動日、宿泊 令和7年1月21日(火)10:30~11:30 政務活動
場所	衆議院第一議員会館
活動の相手方	国
活動の目的	山陰近畿自動車道整備推進決起大会参加
活動の内容	山陰近畿自動車道の整備推進に関する要望書の提出
活動の結果等	鳥取、兵庫、京都各府県の自治体の長、議員、経済界等地域の代表が集い、自動車道の早期整備を要請した。昨年1月には能登半島で地震が発生し、命を守る道路の重要性が再認識された。本自動車道が関係する地域は能登半島とも共通する背景があり、早期整備の重要性を参加者で確認することができた。
関連領収書番号	0109, 0115, 0116, 0117, 0118, 0119, 0120, 0121

山陰近畿自動車道の整備推進に関する
要 望 書

令和7年1月21日

山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会

要 望 書

三府県の日本海沿岸地域において、近年開通した高規格道路沿線では、企業進出の活発化や観光客数の増加など目に見えるストック効果が発現されている。

高規格道路網の空白区間である当地域における地方創生の基盤として、内在する魅力ある資源を最大限活用し、地域を発展させるためにも、山陰海岸ジオパーク地域内を東西につなぐ山陰近畿自動車道の整備が不可欠である。また、太平洋側の国土軸と同様に国土の発展に資する日本海国土軸を形成する幹線道路でもあり、平常時はもとより、激甚化する風水害や切迫する南海トラフ地震等への対策として、日本海側が人流・物流の代替路となることは言うまでもない。また、現道沿いで落石等が発生した場合には、国道178号が全面通行止めとなり、広域迂回が必要になるなど、地域の経済活動等は大打撃を受けることから、現道とのダブルネットワークを形成する山陰近畿自動車道の早期整備を図る必要がある。

令和5年3月には、「岩美道路」(5.7km)が全線供用し、日本海側のミッシングリンク解消に向けて着実に整備が進みつつあるが、山陰近畿自動車道の供用率は未だ4割程度に留まることから、防災・減災、国土強靱化に資する本線のさらなる整備推進に向けて下記事項について強く要望する。

記

1. 来年度予算に向けて、事業中区間の早期供用に必要な予算を確保すること。
2. 早期の全線供用に向けて、未事業化区間の早期事業化を図るとともに、調査中区間の調査推進に必要な予算を確保すること。
3. 山陰近畿自動車道と山陰道や北近畿豊岡自動車道、京都縦貫自動車道との道路ネットワークを早期に実現すること。
4. 山陰近畿自動車道をはじめ、必要な路線の整備や老朽化対策などを着実に推進するため、新たな財源の創設を含め、道路関係予算を上積みすること。
5. 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に必要な予算・財源について、引き続き通常予算とは別枠で確保するとともに、5か年加速化対策後も切れ目なく強力に国土強靱化を推進するため、令和6年度内に、資材価格等の高騰も踏まえた必要な事業規模と期間を盛り込んだ上で国土強靱化実施中期計画を策定し、高規格道路の整備に必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保すること。
6. 直轄権限代行による事業の推進や近年激甚化・頻発化する豪雨・豪雪等の大規模自然災害に対する迅速な労務・資機材提供等、地方公共団体への確実な支援に対応するため、地方整備局等の体制を充実・強化すること。

令和7年1月21日

山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会

会 長	広谷	直樹
副会長	池田	正義
副会長	門間	雄司

山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の役員

会	長	鳥取県	広	谷	直	樹
副	会	京都府	池	田	正	義
副	会	兵庫県	門	間	雄	司
幹	事	鳥取県	銀	杏	泰	利
幹	事	京都府	中	島	武	文
幹	事	兵庫県	橘	秀	太	郎
会	計	鳥取県	島	谷	龍	司

山陰海岸ジオパークが近くなり観光客が増加



山陰海岸ジオパーク

ユネスコ世界ジオパークは国内に10地域のみ！！

3府県(3市3町)にまたがる山陰海岸ジオパークの発展には、さらなる連携強化が必要。

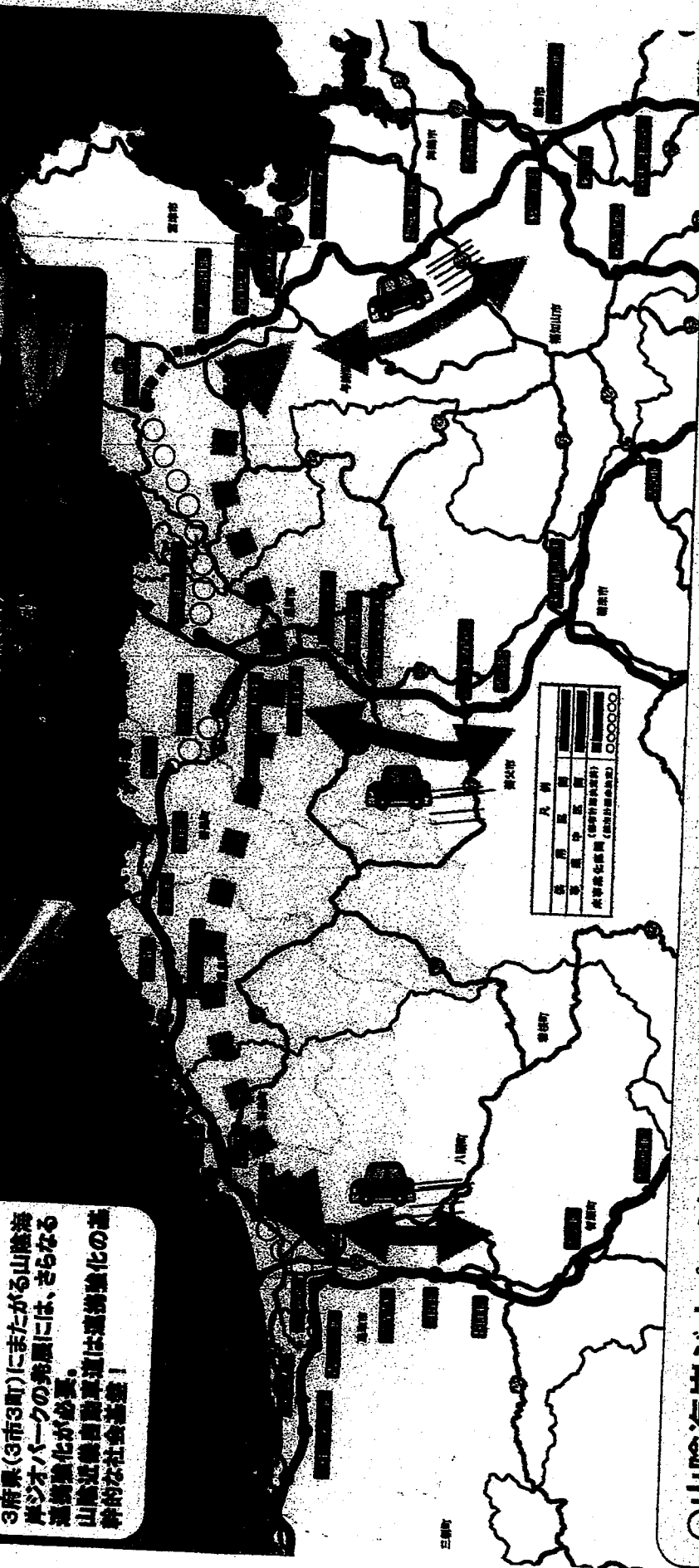
山陰近畿自動車道は連携強化の基幹的な社会基盤！

山陰自動車道 (R1)

天橋立

620 (R1)

572 (R)



- 山陰海岸ジオパークには著名な観光地が点在。鳥取砂丘・いなほ温泉郷周辺、城崎温泉、天橋立等の年間観光客数の合計は、1,841万人/年。
- 山陰海岸ジオパークにつながる三府県の高速度道路の開通と共に観光客数が増加。

活動報告（県外）

議員名：前田 伸一

活動事項	あわら農楽ファームの視察
活動年月日	令和7年2月11日（火） 移動日 宿泊 令和7年2月12日（水） 10:00～12:00 政務活動
場所	あわら農楽ファーム（福井県あわら市山室 72-101）
活動の相手方	(有)あわら農楽ファーム、就労継続支援 A 型事業所（株）農楽里 ■■■■ CEO
活動の目的	スマート農業と農福連携の親和性の調査
活動の内容	事業所の活動内容のヒアリングと作業所現地調査
活動の結果等	<p>当該事業所は 2018 年よりスマート農業を導入しているその内容はクボタの KSAS（情報通信技術）、ドローンの導入、ロボット田植え機アシスト付きコンバインの導入などである。</p> <p>スマート農業の導入お効果として第一にあげられるのが安全性である。GPS 測位レベルの低下、自動運転倉庫経路異常、自動運転エリア逸脱、機体の過大傾斜、故障発生等で機械は自動停止する。全ての事にゼロリスクはあり得ない。何かあれば即停止することがスマート農業の特徴である。このことがスマート農業が農福連携のハードルを下げる第一のポイントである。</p> <p>今回の視察をとおして障害者に対する健常者のアンコンシャスバイアスが農福連携の推進を阻んでいることがわかった。B1・B2レベルの障害者が鎌による草刈から段階的に農作業に携わり、徐々にレベルアップし最終的にはアシスト付きコンバインや自動田植機を操作できるまでになっている。またスマート農業を活用した利用者の作業効率は健常者の慣行農業での作業時間に引けを取らないデータも出ている。</p> <p>障がい者の農業への親和性は極めて高いことが分かった。</p>
関連領収書番号	0209, 0210, 0213

活動報告(県外)

議員名：前田 伸一

活動事項	福井県の RTK 基地局設置の調査
活動年月日	令和7年2月12日(水) 13:30~15:00 政務活動
場所	福井県庁
活動の相手方	福井県園芸振興課主任竹内健、主事坂本圭
活動の目的	スマート農業の基盤となる RTK 基地局の設置効果についての調査
活動の内容	資料に基づくヒアリング
活動の結果等	<p>農家には高い評価をいただいているとのこと。 事業主体が NOSAI 福井であり、農家にとって身近な存在であること。 利用料金が1ライセンス当たり 26400 円と手軽なことがその理由とのこと。 しかし、ランニングコストを賄うには 300 ライセンスが必要であり、 現在 202 ライセンスに留まっていることから、赤字を県が補填している。</p> <p>位置情報システムによるスマート農業は技術の変化が激しく、日進月歩で様々なタイプの商品が開発されている。 福井県は令和元年に RTK 基地局を整備した。このシステムを導入した背景には当時は選択肢が限られていたことが挙げられる。今施設更新の時期を迎えており更新をどのように行うのか検討中とのこと。 富山県では NTT のシステムを活用している。また他社の無料のシステムも開発されており、現段階では RTK 基地局を自前で設置してよかったのか疑問を持っているとのこと。 鳥取県への導入については慎重な検討が必要であると思った。</p>
関連領収書番号	0211, 0212, 0214

活動報告（県外）

議員名：前田 伸一

活動事項	大林組高層純木造耐火建築物 PortPlus の視察
活動年月日	令和7年2月17日(月)13:30~15:00 政務活動 宿泊
場所	横浜市中区日本大通り1
活動の相手方	大林組 ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ (岡山営業所)
活動の目的	大林組の CLT を活用した高層建築の現状と課題の調査し今後の県内での CLT 普及について検討すること
活動の内容	現地調査と資料に基づくヒアリング
活動の結果等	<p>大林組が施行した高層純木造耐火建築物 PortPlus は、地下1階地上11階建て、延べ面積約3500m²、用途は自社の研修所として建築されている。木材使用量は1990m³、CO2固定量は1652t、CO2削減量は鉄骨造と比較し1700tとなっている。</p> <p>この建築物は構造部材のほぼすべてに木材を使用している。その際ポイントとなる柱と梁を接合する新技術として剛接合仕口ユニット（大林組特許）を導入している。また構造部材の耐火性能として日本初となる3時間耐火の認定を取得している。これは構造支持部材の周りを燃焼を止める燃え止まり層で囲い、さらに燃焼時間を稼ぐために燃え代層の木材を貼り付ける仕組みとなっている。</p> <p>本建築物は大林組が手掛ける高層純木造耐火建築物として初めてのものであり、耐候性を検証する目的も兼ねている。</p> <p>高層純木造耐火建築物は海外での施工事例は多いものの日本では耐震性耐火性の基準が厳しく進んでいないのが現状である。また国交省の設計基準も定められておらず建築技術者の高度な知識が設計には必要であるとのことだった。地方部で施工実績を積むには国交省のマニュアルが不可欠と感じた。</p> <p>コストは鉄骨造と比べて1.3倍の費用がかかり割高となっている。さあなる普及を図るためにはさあなるコスト削減が必要であると思った。</p>
関連領収書番号	0215, 0219

活動報告（県外）

議員名：前田 伸一

活動事項	竹中工務店免震高層木造ハイブリッド建築物フラッツウッズ木場の視察
活動年月日	令和7年2月18日（火）9:30～10:50 政務活動
場所	東京都江東区東陽3丁目25の12
活動の相手方	（株）竹中工務店 ■■■■■、■■■■■ 大和ライフネクスト（株）■■■■■
活動の目的	竹中工務店の CLT を活用した高層建築の現状と課題の調査し今後の県内での CLT 普及について検討すること
活動の内容	現地調査と資料に基づくヒアリング
活動の結果等	<p>竹中工務店が施行した免震高層木造ハイブリッド（RC+木）建築物フラッツウッズ木場は、地上12階建て、延べ面積約9150㎡、用途は単身者向け共同住宅として建築されている。木材使用量は燃えんウッド39 m³、CLT69m³。2020年2月竣工</p> <p>この建築物の特徴は耐火性能3時間の燃えんウッドの開発利用である。建物の荷重を支える構造体に集成材を利用し、その周囲をモルタルや石膏系の材料で覆い、さらにその上に燃代層として木材を貼り付け三層構造としている点である。燃えんウッドの丸柱も開発しており、実物も確認した。</p> <p>木材は水分の影響で劣化が進むこと、また乾燥による燃えんウッドの丸柱のひび割れのディスクについても確認した。</p> <p>担当者からのヒアリングの中で、日本のJas規格や厳格な耐火性能の要求がコストを上げる一つの要因とのお話を伺った。</p> <p>近年発生したウッドショックやSDGs、また経済安全保障の観点からも国産材の建築物への活用は今後増やしていかなければならない。各ゼネコンが保有している独自技術の汎用化を進めることが日本国内でのCLTをはじめとした木材のさらなる活用が進むことがわかった。</p>
関連領収書番号	0216, 0217